2020 No.018

JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND REPORT

日本山岳遺産基金通信

日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

新型コロナウィルス感染症により、影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。コロナとともにあった2020年、日本山岳遺産基金の活動も大きく制限を受けることとなりました。人が移動し、密集するイベントは開催を見送らざるをえず、山と溪谷社創業90周年の記念事業でもあった6月の「安全登山シンポジウム」は中止。東日本大震災の翌年から続いてきた7月の「東北の高校生の富士登山」への後援もかないませんでした。コロナ禍の収束まではまだしばらく時間がかかるかと思われますが、当基金はウェブサイト等を通じて日本山岳遺産認定地をアシストする情報発信は積極的に続けてまいります。今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

着実に活動を続ける4地域／団体を日本山岳遺産に認定

昨年、日本山岳遺産創設から節目の10年を迎え、当基金にとって次の10年に向けスタートを切ったばかりの2020年4月。政府の緊急事態宣言が発出されるなか、このコロナ禍下で活動を続けられている団体があるのか、そして日本山岳遺産認定への応募が集まるのか、事務局では心配もありました。しかし、ふたを開けてみれば、8月末の締め切りまでに8つの団体から申請を受け付け。アドバイザリーボードの助言のもと、2020年度は右記の4地域／団体を新たに認定することとしました。

認定団体には来年度の活動に供する助成金を今年度末（2021年3月末）に支給し、山と溪谷社／日本山岳遺産基金の雑誌やウェブサイトなどのメディアを通じて活動を支援していきます。今回の4地域／団体が加わることにより当基金が認定した日本山岳遺産は全国39の地域／団体となりました。

それぞれの認定地と認定団体の活動は次ページ以降に詳しく掲載しています。また例年、年に1回行ってきました「日本山岳遺産サミット」については、今年度の開催を見送る代わりに、各団体の活動内容を紹介する動画を制作し、当基金のウェブサイトにて公開予定です。イベントを行わずとも多くの方々に新たに認定された日本山岳遺産を知ってもらえるような手立てを進めています。ウェブサイトで詳細な情報は適宜、発信していきますので、引き続きご注目ください。

1 鋸山（千葉県）／金谷ストーンコミュニティー：地元住民と登山者主体の社会参加型整備事業

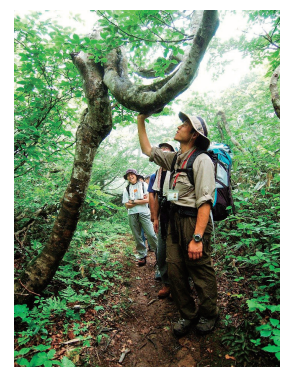
2 信越トレイル（長野県・新潟県）／特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ：トレイルの延伸事業

3 金剛山（大阪府・奈良県）／金剛錬成会：登山道の維持活動と安全登山のための意識啓発活動

4 山王山（長崎県）／新上五島町荒川郷：登山道整備活動

＊順不同

鋸山／金谷ストーンコミュニティー


信越トレイル／特定非営利活動法人信越トレイルクラブ

金剛山／金剛錬成会

山王山／新上五島町荒川郷

2020年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

千葉県 鋸山（のこぎりやま） 認定団体 金谷ストーンコミュニティー

山の概要　千葉県富津市金谷と鋸南町の境に位置する鋸山は、良質な凝灰岩の上に植物が繁殖し、貴重な野生植物の宝庫となっている。山頂部分の露出した岩肌と、下部を覆う広葉樹と針葉樹が混在した緑地のコントラストが特徴的。江戸期より始まった採石産業が、このような鋸山独特のダイナミックな景観を作り出した。最後の採石が終了してから35年が経過し、近年では石切場自体が貴重な産業遺産としても注目を浴びている。

認定団体　金谷ストーンコミュニティーは、房総のシンボル・鋸山を次世代へ伝え遺すため、2007年に設立された。房州石の歴史及び産業遺産としての人との関わりについての調査研究と、鋸山の景観維持のための整備・環境保全を軸に活動している。2019年には台風の甚大な被害を受けて登山道が通行不可となったため、地域内外の有志による復旧作業を行った。地元と都市住民が一丸となり、環境保全と安全登山啓発活動に取り組んでいる。

登山道復旧作業のために集った有志の皆さん

認定理由　近郊の一般市民にも親しまれている山で、景観維持、環境保全、安全啓発など多彩な活動を続けてきた実績を評価。

長野県 新潟県 信越（しんえつ）トレイル 認定団体 特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ

山の概要　信越トレイルは、長野・新潟県境に沿った関田山脈の尾根伝いに設定された全長約80kmのトレイルである。標高約1000mの山脈は、冬には積雪が8mを超える世界有数の豪雪地帯であり、豊富な雪解け水が育んだブナの手つかずの広葉樹林が広がる。山域にしか生息しない固有種や県の絶滅危惧種も生息し、山全体が国の天然記念物に制定されている。かつて信濃と越後の人々の生活や文化を結ぶ交通の要所として峠道を有していて、現在も峠に石垣や茶屋跡が残る。

認定団体　2004年2月からNPO法人化。信越トレイルを通して山里の地域と連携を図り、トレイルが有する自然・文化・歴史の地域資源を再認識し、トレイルを訪れる人々との交流を通じて地域の活性化・観光振興に寄与する。また、人間と自然とが共存する里山の機能を理解するとともに新たな里山の在り方を考え、環境問題への意識の啓発を主導する。具体的には、トレイルや森林の整備・維持管理事業、自然保護に係る啓発活動、自然観察会などのイベント事業などの活動を行っている。

山里の小学生たちと自然観察

認定理由　日本のロングトレイルの先駆けとして官民連携した活動内容を評価。古道を復活・整備しての延伸に期待。

大阪府 奈良県 金剛山（こんごうさん） 認定団体 金剛錬成会

山の概要　大阪府、奈良県、和歌山県にまたがる金剛生駒紀泉国定公園の最高峰であり、日本二百名山の一つ。大阪府内で絶滅危惧Ⅰ類となっているノカラマツやミツバコンロンソウなどが生育するほか、多様な植物相が残っている。大阪市内から登山口までのアクセスもよく、年間を通じて登山初心者のみならず、毎日回数登山、ダイヤモンドトレールのトレイルラン愛好家など、多くの登山者に愛される山である。2020年度の日本遺産に認定された。

認定団体　金剛錬成会は1962（昭和37）年に発足。「金剛山を活動地域として、健全な精神と肉体を錬成し、会員同士の親睦を図ること」と目的に活動。回数登山をする会員が多数いる。金剛山へ安全に登山できるよう真夏や雪の時期を除き、月に1回程度登山道の補修や倒木の処理、刈払い等の活動を実施。大きな崩落等の修復は、周辺自治体に働きかけて行った。1996年に設置された山頂の公衆トイレを会員が交代で清掃等に当たっている。

登山道の階段の修復作業

認定理由　地域の登山愛好家や一般市民に広く親しまれている山で、行政と協働して活動を続けている点を評価。

新たに認定した4つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

長崎県 山王山（さんのうざん） 認定団体 新上五島町荒川郷

山の概要　西海国立公園に指定されている長崎県五島列島。そのなかでも二番目に大きな中通島のほぼ中央に位置するのが439mの山王山。五島列島全体を展望でき、亜熱帯系の照葉樹林が分布、動物相も亜熱帯系の種が飛来する。遣唐使の遺跡が存在し、最澄ゆかりの山岳信仰の山でもある。2015年日本遺産に認定された。山頂には1200年の歴史もつ地元の神社が建てられ、地域では、神社に関わる祭事などが毎年行れている。

認定団体　新上五島町荒川郷中通島にある荒川郷自治会は、島内4地区から構成され、世帯数約250世帯、総人口490人で70歳以上の高齢者が3割。1878（明治11）年に設立し、地域に根付いた環境整備活動を続けている。毎年、自治会活動として、登山道の清掃、除草作業など環境整備を行っている。2019年度は、グリーンワーカー事業を活用し、山王山登山道の懸案事項であった廃材等が撤去され、快適なルートを確保することができた。

廃材撤去により快適な登山道を確保

認定理由　1878年に設立し、地域に根付いた環境整備活動を長く続けていることを評価。過疎高齢化が進むこの地域で、今後も活動が継続されることを期待。

2020年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

1. 櫛形山（山梨県）／櫛形山ネットワーク
2. 小金沢シオジの森（山梨県）／シオジ森の学校
3. 乙女高原（山梨県）／乙女高原ファンクラブ
4. 石鎚山（愛媛県）／久万高原町
5. 早池峰山（岩手県）／早池峰にゴミは似合わない実行委員会
6. 九州中央山地五家荘エリア（熊本県）／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
7. 夕張岳（北海道）／ユウバリコザクラの会
8. 七時雨山（岩手県）／七時雨ロマンの会
9. 臥龍山（広島県）／芸北自然保護レンジャー
10. アポイ岳（北海道）／アポイ岳ファンクラブ
11. 金華山（宮城県）／特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
12. 船窪岳（長野県・富山県）／船窪小屋・道しるべの会
13. 大台ヶ原大杉谷（三重県）／公益社団法人大杉谷登山センター
14. 吾妻山（福島県）／吾妻山自然倶楽部
15. 鍬ノ峰（長野県）／長野県大町岳陽高等学校山岳部
16. 徳本峠（長野県）／古道・徳本峠道を守る人々
17. 南木曽岳（長野県）／南木曽山士会
18. 三嶺（高知県・徳島県）／三嶺の森をまもるみんなの会
19. 美瑛富士（北海道）／山のトイレを考える会
20. 嘉穂アルプス（福岡県）／嘉穂三山愛会
21. 二ツ森（秋田県）／一般社団法人白神コミュニケーションズ
22. 岩手山（岩手県）／岩手山地区パークボランティア連絡協議会
23. 三ツ峠（山梨県）／三ツ峠ネットワーク
24. 霧ヶ峰（長野県）／霧ヶ峰草原再生協議会
25. 入笠山（長野県）／入笠ボランティア協会
26. 伯耆大山（鳥取県）／グラウンドワーク大山蒜山
27. 大雪山・黒岳（北海道）／一般社団法人大雪山・山守隊
28. トムラウシ山（北海道）／新得山岳会
29. 飯豊山（山形県・新潟県・福島県）／特定非営利活動法人飯豊朝日を愛する会
30. 鹿沼市・岩山（栃木県）／機動パトロール隊
31. 高田大岳（青森県）／十和田山岳振興協議会
32. 大笠山（富山県）／五箇山自然文化研究会
33. 伊吹山（滋賀県・岐阜県）／伊吹山を守る自然再生協議会
34. 比叡山・比良山地（滋賀県・京都府）／比良比叡トレイル協議会
35. 脊振山系（福岡県・佐賀県）／脊振の自然を愛する会

1〜35は2019年度までに認定の日本山岳遺産

37 信越トレイル（長野県・新潟県）
特定非営利活動法人
信越トレイルクラブ

38 金剛山（大阪府・奈良県）
金剛錬成会

39 山王山（長崎県）
新上五島町荒川郷

36 鋸山（千葉県）
金谷ストーンコミュニティー

山小屋支援プロジェクト「山小屋エイド基金」に賛同

コロナ禍下で登山の自粛が叫ばれた今春。登山者に安全・安心を提供してきた山小屋も営業自粛で厳しい経営環境に置かれることになりました。そんな山小屋を応援しようと、5月に山と溪谷社が立ち上げたプロジェクトが「山小屋エイド基金」。当基金もその賛同団体に加わりました。3カ月にわたるクラウドファンディングの結果、支援者は9442人、集まった支援金は当初の目標金額300万円を大幅に上回る約9687万円（達成率3229％）となり、12月には、支援を希望する全国100軒の山小屋へ均等に分配されました。

予想をはるかに超える支援が集まったクラウドファンディング・山小屋エイド基金

『山と溪谷』誌で日本山岳遺産を紹介する「日本山岳遺産の横顔」が連載

山と溪谷社が発行する『山と溪谷』誌の2021年1月号から「日本山岳遺産の横顔」という連載がスタート。登山道の修復や整備、自然環境の保全維持、安全登山の啓発などに取り組む各地の認定団体の人々は、どのような思いをもって山々で活動を続けているのかを、毎号1団体ずつカラー1ページで取り上げます。

創設からの11年間に日本山岳遺産に認定された団体の数は今年度で合計39。それぞれの認定団体の最新の活動状況とともに紹介していきます。毎号どうぞお見逃しなく。

『山と溪谷』2021年1月号から連載開始。第1回目は2019年度認定の「脊振の自然を愛する会」（脊振山系）を紹介した

2019年度活動報告　当基金10年の活動実績を環境省が表彰

2020年2月15日に行った2019年度の「日本山岳遺産サミット」。節目の10回目ということで、当日の会場では10周年記念の冊子『日本山岳遺産基金 10年のあゆみ』を配布し、過去の認定地の方々もお越しいただきました。広い会場で多くの参加者も迎え、例年以上ににぎやかな開催となりました。また、これまでの当基金の活動が、日本の山々の保護と適正な利用推進に貢献してきたと評価され、環境省から感謝状を授与されました。

環境省の鳥居自然環境局長より感謝状が授与された

サミット会場には過去認定地を紹介するブースも設置

組織（2020年12月20日現在）

■ **正会員**
株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■ **会長**
川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■ **監事**
二宮宏文（株式会社インプレスホールディングス 執行役員）

■ **事務局長**
吉野徳生（株式会社山と溪谷社）

■ **特別会員**
公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■ **法人賛助会員**（50音順）
株式会社アライテント
株式会社システム・クリエート
株式会社千秋社
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
日本山岳救助機構合同会社(jRO)
日本費用補償少額短期保険株式会社
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社モンベル

■ **個人賛助会員**
1名

■ **アドバイザリーボード**
下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学講師）
田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問）
西本武志（元日本勤労者山岳連盟会長）
野口 健（アルピニスト）
山川陽一（公益社団法人日本山岳会）

2019年度収支報告

前年度繰越金	15,460,904円
収入	
会員費	800,000円
協力金等	538,312円
寄付金等	1,982,437円
その他	29,108円
収入合計	3,349,857円
支出	
プロモーション費	534,310円
イベント費用	617,222円
基金運営費	120,406円
助成金	2,000,000円
支出合計	3,271,938円
収支	＋77,919円
次年度繰越金	15,538,823円

日本山岳遺産基金事務局
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング　株式会社山と溪谷社内
TEL 03-6744-1900（代表）　FAX 03-6744-1928
https://sangakuisan.yamakei.co.jp/　e-mail：kikin_info@yamakei.co.jp

発行＝2020年12月20日